

神奈川区地域福祉保健計画

中間案

平成16年11月1日

これからも住み続けたい神奈川区にするために ～ 神奈川区地域福祉保健計画とは ～

1 はじめに

誰もが、住み慣れた地域で、生き生きと、心豊かに、安心して暮らす、そんな社会を願っているのではないのでしょうか。

地域の人と人が、互いにかけてえのない存在として、共に生き、ささえあっていくような社会を実現するための、地域での日々の取り組み、それが『地域福祉』です。

人が生まれ、育ち、学び、働き、歳を重ね、多くの人と出会い、ふれあい、性別、年齢、職業、文化、国籍、様々な違いを尊重しつつ、対等な人間として、この地域で共に生きていく…このような社会では、誰もが地域福祉の担い手であり、受け手でもあるのです。

この「地域福祉保健計画」は、「住みなれた地域で、誰もが安心して暮らし続ける」ということを基本理念とし、そのための「しくみづくり」を推進するものです。

「神奈川区に住んでいてよかった！」と一人でも多くの人が思えるような、地域づくりをめざし、実現していくのが「神奈川区地域福祉保健計画」です。

2 計画策定の背景

わが国では、2006年を頂点として人口が減少すると予測され（※注）、急激な少子高齢社会が進んでいます。もちろん、横浜市や神奈川区も例外ではありません。

また、生活習慣病が増加する中で、健康を保ち、生き生きと暮らし続けることへの関心が高まっています。

一人ひとりの価値観の多様化、家族形態の様々な変化、地域の人間関係の希薄化など、社会環境・価値観が大きく変化しています。

地域でどのように安心して心豊かな生活を送ることができるのか、期待や不安が大きくなっています。

このような状況のなかで、多様化するニーズに応え、一人ひとりの住民が求めるサービスを提供するためには、「地域のあり方」を見つめ直していくことが必要です。行政の役割を検討するとともに、地域でのささえあいや住民相互の助け合いの大切さを再認識し、『地域福祉』をさらに充実させていくことが求められます。

ささえあいや助け合いの中から生まれるサービスと、行政によるサービスとが結びつくことによって、よりきめ細やかで、充実した地域での支援のしくみが作られます。ささえあいや助け合いが身近にあり、行政が必要なサービス提供の基盤を整備することで、地域住民の「安心」や「生き生きとした暮らし」が実現されていくのです。

このような『地域福祉』を推進していくために、「今、自分たちがしていること」、「これから自分たちができること」を、行政と住民とが一緒に考えていくことが必要です。このような行政と地域住民との「協働」によってこそ、地域福祉が推進され、誰もが暮らしやすい地域が築きあげられていくのです。

そこで、私たちが住む「まち」の10年後、20年後を見据えながら、地域の福祉・保健の課題、困りごとなどについて、「地域で解決できるしくみづくり」を話し合い、行政との協働で「地域福祉保健計画」を作り上げることにしました。

注：国立社会保障・人口問題研究所による平成14年1月推計データより

3 これからも住み続けたい神奈川区にするために

神奈川区では、約22万人の人が暮らしています。

アンケート調査では、約70%の人が「今の地域に住み続けたい」と答えています。

この70%の人たちがこれからも住み続けたいと思い、さらに多くの人たちが「神奈川区に住んでよかった。」と思ってもらえるような地域を築くために、「地域福祉保健計画」を策定します。

そして、できあがった計画を、地域の皆さんとともに実現し、育てていきます。

そのために計画づくりにあたって、次のような視点を大切にしていきます。

① 地域に密着した具体的な意見や課題の収集

中学生から高齢者までさまざまな方に集まっていただく地区懇談会や、また、地域で活躍されている いろいろな団体との懇談会などから幅広く意見をいただいています。また、区民の健康づくりに関する実態把握のためにアンケートや、近年のデータ分析を実施しました。

② 具体的に「神奈川区の将来像」が描けるようなわかりやすい表現

誰もが共通認識できるような、「こうなったらいいな」という姿を具体的に描き、その実現を基本目標としています。

③ 基本目標の具体的なイメージである21の「個別目標」の提案

21の「個別目標」を立て、それを活用して、「今、自分たちがしていること、これから自分たちができること」を確認していきます。

④ 計画を推進するための体制の整備

できあがった計画を確実に進めていくために、進行状況を検証する体制を整えていきます。

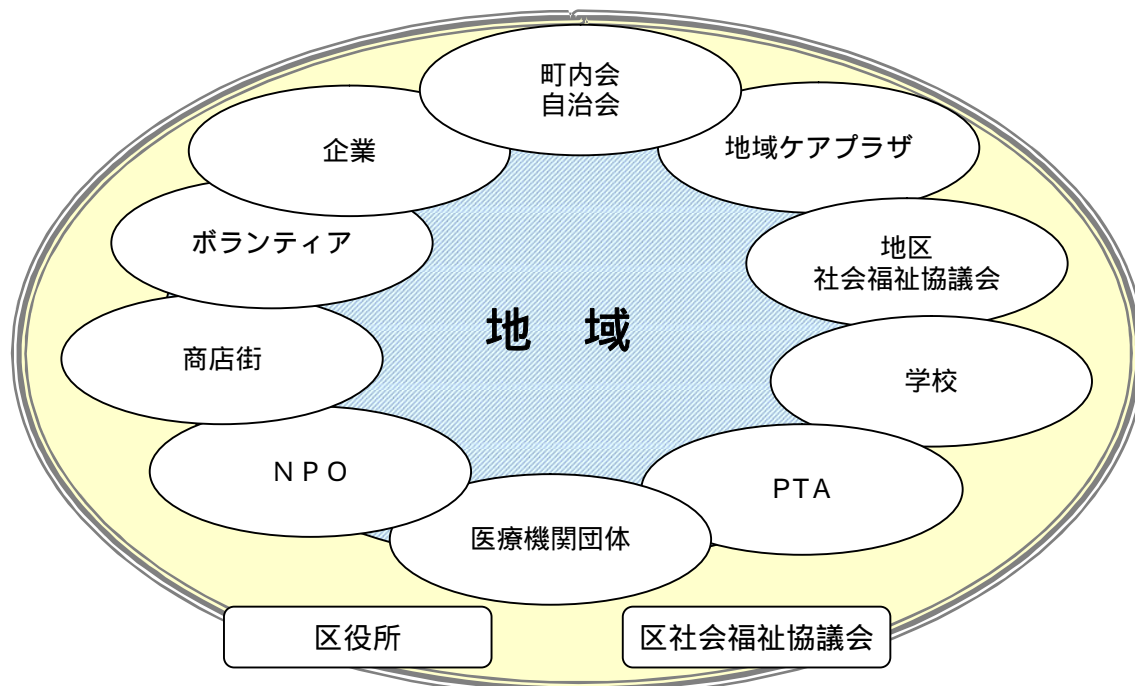
こうしてできあがる計画ですが、実はまだスタート地点に立っているにすぎません。5年後、10年後には素晴らしい花を咲かせることができるよう、地域の皆さんと行政との協働で、この計画を共に推し進めていきましょう。

ところで、今回の計画における「地域」とは何でしょう？

私たちがまず思い浮かぶ地域とは、隣近所、町内会や自治会、小中学校の通学区域などでしょう。

でも、最近はそういった身近なエリアを超えて、様々な活動が地域で行われるようになりました。例えば、ボランティア活動、NPO活動などです。

いろいろな目的をもった多様な活動が広がり、人と人との関係が変化していく中で、様々な顔をもった「地域」があります。そんな多様な「地域」を、今回の計画では考えていきます。



計画策定のながれ

区民の方々の様々な御意見を伺いました。

地区懇談会

10の地域会場で開催、393の方が参加されました。
「地域で生活するうえで困っていること、何とかしたいと思っていること」とその解決策について、意見を出し合いました。

【開催地域】

- ・新子安、子安通1丁目、入江、神奈川地区
<新子安地域がアツゾ>
- ・神之木西寺尾、松見、大口七島地区
<神之木地域がアツゾ>
- ・白幡地区<白幡向町町内会館>
- ・幸ヶ谷、青木第一、青木第二、三ツ沢地区
<反町地域がアツゾ>
- ・六角橋地区<六角橋公園プール集会所>
- ・神西、神北、浦島丘地区<エコライフ神奈川>
- ・神大寺、片倉、三枚地区<片倉三枚地域がアツゾ>
- ・菅田地区<菅田地域がアツゾ>
- ・羽沢地区<特別養護老人ホーム若竹苑>
- ・三ツ沢地区<三ツ沢中町会館>

【開催時期】

平成15年11月から平成16年3月にかけて各地域で1～2回ずつ実施しました

区民意識調査

無作為抽出した3000人の方にアンケートを郵送し、御協力いただきました。

(回収率44%)

地域に対する意識や、健康に対する意識を調査しました。

関係団体懇談会

地域を舞台に活躍しているボランティア、NPO、当事者団体、支援者団体、事業者などの関係団体の方と、地域の望む5つの基本目標について、何ができているのか、これから何ができるのかを検討しました。

【開催回数】

14回

【参加団体数】

52団体

【延べ参加人数】

76人

策定委員会

地域を構成する主な団体の代表と、公募委員、区、区社協で構成された19人の委員により、区民からの御意見の取り上げ方や計画のまとめ方を検討します。

【委員構成】

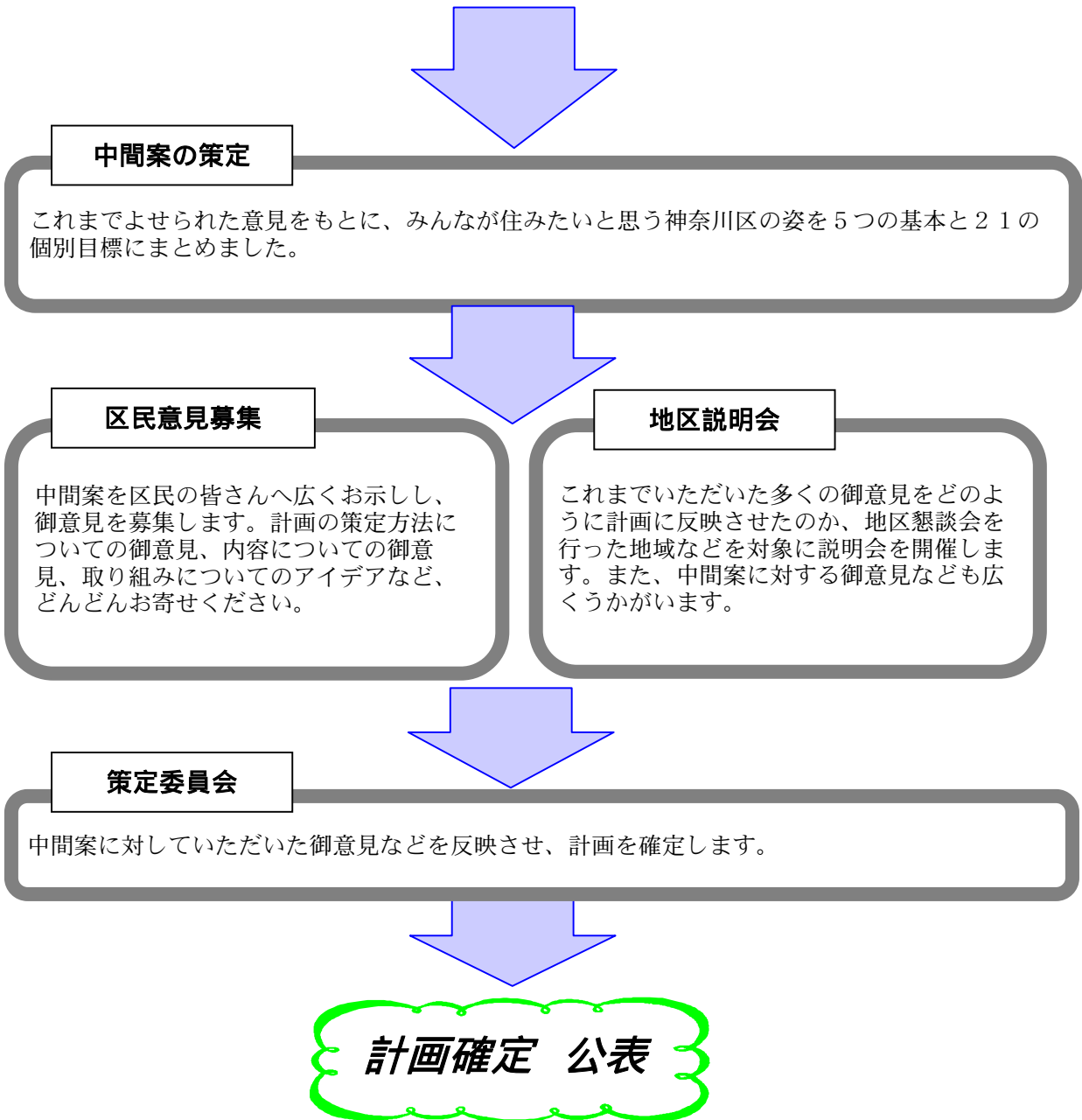
連合町内会自治会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進員会、心身障害者団体連絡会、ボランティアグループ連絡会、食生活等改善推進員会、区医師会、親がめ会議、公募委員、有識者、区、区社会福祉協議会

5つの基本目標

様々な区民の皆さんの意見を集約、分類し、「めざすべき神奈川区の姿」を5つの到達目標として掲げました。

21の個別目標

5つの基本目標をさらに具体化し、神奈川区のめざす姿として21の個別目標にまとめました



計画の推進について

地域福祉保健計画は、計画を作ることが目標ではありません。計画ができたところがスタート地点です。

これから、計画をどのように活用して生かしていくか、これこそが大切なのです。

そのために、計画の5つの基本目標の達成に向けて、地域と行政、それぞれができることを具体的に考え、できることから始めていきます。

また、計画の推進状況を把握し、進行管理をしていくために推進体制を検討し、必要に応じて目標達成状況の振り返りを行います。

5つの基本目標と21の個別目標について

地区懇談会、関係団体懇談会、区民意識調査、などで出された意見やデータをもとに、「みんなが描く神奈川区の目指すべき姿」を5つの基本目標にまとめました。

さらに、5つの基本目標をさらにわかりやすくするために、21の個別目標を設定しました。

次のページからは、それぞれの基本目標・個別目標の達成に向けた取り組みの方向性をまとめました。

基本目標 1 あなたもわたしも地域の一員です。

- 1 隣り近所が顔見知りで、声をかけあう関係ができています
- 2 一人ひとりが地域の一員としての自覚を持ち、地域の活動に参加しています
- 3 みんなの支えあいの中で生活し、日々の行動が支えあいにつながっています
- 4 地域への関心を持ち、生活のマナー・モラルが向上しています
- 5 みんなが常に安全と環境について関心をもって行動しています

基本目標 2 ささえあいのしくみ組織が活きています。

- 6 地域の活動をささえる組織としくみが充実しています
- 7 一人ひとりのできることが活かされるしくみになっています
- 8 地域の活動を支援するたくさんの団体があります
- 9 商店街や事業者など企業が地域での活動に参加しています
- 10 学校、福祉関連施設などが地域と連携しています

基本目標 3 教えあい学びあって成長しています。

- 11 地域の中に、地域をまとめる人、相談できる人が育っています
- 12 次代を担う人がいろいろな活動に積極的に参加しています
- 13 みんなで教えあい学びあって、地域の生活文化が育まれています

基本目標 4 いつでも・どこでも必要な情報が利用できます。

- 14 必要な情報が蓄えられていて、いつでも手に入ります
- 15 さまざまな手段を通じて、必要な人に情報が伝わっています
- 16 だれでも、SOSを発信できます

基本目標 5 一人ひとりにあった十分なサービスがあります。

- 17 必要な人が仲間と出会える機会があります
- 18 困ったときに身近に相談できる人や場所があります
- 19 地域の活動グループがお互いに連携しています
- 20 だれもが利用できる場所が確保されています
- 21 自分にあったサービスを選べます

21の個別目標

次頁 基本目標ごとの「目標の達成に向けて」



基本目標1 あなたもわたしも地域の一員です。

【地区懇談会から】

- ・地域住民同士の関係を深めることが大切
- ・団地の高齢者同士が知り合えると良い
- ・町会イベント若い父親の参加が少ない
- ・手伝って欲しい人がいるのを知らない
- ・犬の放し飼い、ゴミ出し等マナーが悪い
- ・ゴミを出さない心がけが必要では
- ・通学等の子ども達への声かけ
- ・見守りが大切

【関係団体懇談会から】

- ・犬の散歩をしながら高齢者を見守るなど、身近なことで活動できる工夫をする。
- ・障害のハンディの部分だけ手伝ってくれれば、障害者の側が地域に強力できることもある。
- ・住民同士があいさつすることが地域の基本。そこから良い関係がつけられる。

【区民意識調査から】

・隣近所との付き合いは「お互いに干渉しあわず、サバサバして暮らしやすい」人が60%であったが、一方で「みながバラバラの感じで寂しい」人が12.5%、「親密な人間関係があって暮らしやすい」人16.8%と親密な関わりを求める人も3割近くいる。



基本目標 1

あなたもわたしも地域の一員です。～さわやかな関係のあるまち～

お互いに親切や思いやりのある生活を送っています。無関心でなく、だからといって干渉しすぎてもない、住民同士がさわやかな関係を持っているまちを創ります。

基本目標を達成するための'21の個別目標

- 1 隣り近所が顔見知りで、声をかけあう関係ができています
- 2 一人ひとりが地域の一員としての自覚を持ち、地域の活動に参加しています
- 3 みんなのささえあいの中で生活し、日々の行動が支えあいにつながっています
- 4 地域への関心を持ち、生活のマナー・モラルが向上しています
- 5 みんなが常に安全と環境について関心をもって行動しています

～ある・ある！地域のこんな取り組み

回覧板で募集していた少年少女消防団に参加して町内の見回りをしたことがあります。普段経験しないことなので楽しかったです。

高齢者の食事会に子供会・生徒会の役員も協力しています。

町内の「防犯」の見回りをしながら、ゴミの集積所のゴミ出し状況を確認している地域もあります。

独りの食卓が寂しいと思った方の発案で、近所の単身者の方が互いの家集って、週に1度は昼食を共にしています。

あなたはどんなことに取り組みますか？

基本目標2 ささえあいのしくみ組織が活きています。

【地区懇談会から】

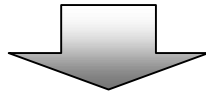
- ・町会組織の内容が分かりにくい
- ・地区活動に参加する若い人がいない
- ・町内会館などの施設を利用しやすく
- ・ちょっとしたボランティアのとりくみ
- ・ボランティアの資金問題・経済的な援助
- ・遠距離通勤者は地域活動に参加できない
- ・学生もボランティアに参加したい
- ・地域から学校への働きかけが難しい

【関係団体懇談会から】

- ・障害者の共同作業所で地域の掃除を始めたところ、地域の人から声をかけられるようになった。
- ・子供会は小学生まで、自治会は大人。その間の年齢の人は地域とほとんど関係がなくなってしまう。
- ・地区内にボランティアの拠点があれば、小さなことは地区で解決できる。

【区民意識調査から】

- ・町内会自治会活動の重要度は
1位 防火防犯、2位 清掃などの町の美化、3位 資源回収・リサイクル、4位 交通安全、
5位 掲示板による情報提供、6位 会報の発行など地域情報の提供 で、
いずれも7割以上の方が大変重要あるいは、重要であると回答している。(問16)



基本目標 2

ささえあいのしくみ組織が活きています。

～わくわく協力しあえるまち～

地域の中に、ささえあいを行う組織があり、充実した活動を行っています。また、いろいろな人が活躍できるしくみが出来ていて、みんながわくわく協力し合いながら活動に参加しているまちを創ります。

基本目標を達成するための'21の個別目標

- 6 地域の活動を支える組織としくみが充実しています
- 7 一人ひとりのできることが活かされるしくみになっています
- 8 地域の活動を支援するたくさんの団体があります
- 9 商店街や事業者など企業が地域での活動に参加しています
- 10 学校、福祉関連施設などが地域と連携しています

～ある・ある！地域のこんな取り組み

障害者も参加して、地域の団体が高齢者への配食サービスを行っています。

地域の防災訓練に障害者も積極的に参加して、顔の見える関係づくりを進めています。

地域ささえあい連絡会で、まちの役員同士や学校が顔見知りになり、新たな取り組みを始めています。

町内会の催し物の際、近隣の福祉施設にも声をかけ、一緒に参加しています。

入居者の高齢化が進んだ団地で、団地内のあちこちに傾斜があるため車椅子体験を実施し「車いす通行路マップ」を作成しました。

あなたはどんなことに取り組みますか？

基本目標3 教えあい学びあって成長しています。

【地区懇談会から】

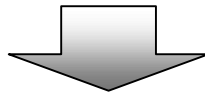
- ・町会の後継者不足による役員の長期化
- ・団塊の世代の力をいかに地域に取込むか
- ・若者からの情報収集
- ・子どもや若い世代の活躍の場づくり
- ・ゴミ出しなどのマナーの問題
- ・コミュニケーションが図られていない

【関係団体懇談会から】

- ・朝、食事をしない子どもが増えている。若い親へ「食」の面からはたらきかけをしたい。
- ・学校の文化祭に地域を招くだけでなく、地域の人と一緒に文化祭をつくるようにしたらどうか。
- ・[子がめ隊]に参加して地域のいろいろな人と知り合いになり、子育て以外のこともたくさん学べた。
- ・健康づくりの取組みで企画に工夫したら、若い人の積極的な参加があった。

【区民意識調査（3000人アンケート）から】

- ・自治会町内会に昔から加入していない理由の4割が「活動内容・加入方法がよくわからないから」であり、身近な情報が広まりにくくなっている。



基本目標3

基本目標 3

教えあい学びあって成長しています。～のびのび成長しているまち～

住民同士がみんなで教えあい学びあって、地域でのさまざまな生活課題を解決できる、のびのびと成長していくまちを創ります。

基本目標を達成するための「21の個別目標」

- 11 地域の中に、地域をまとめる人、相談できる人が育っています
- 12 次代を担う人がいろいろな活動に積極的に参加しています
- 13 みんなで教えあい学びあって、地域の生活文化が育まれています

～ある・ある！地域のこんな取り組み

地域の祭りの中で、子どもに昔の遊びを伝承するコーナーを設けて大人と子どもがふれあえるようにしています。

ボランティア活動のための勉強会を地域に暮らす専門家の協力を得て進めています。

地域の祭りの実行委員会に、中高生も参加していて、町中顔見知りになっています。

小学生から中学生を中心とした学齢障害児のサポートボランティアが活動を始めました。

地域の冒険遊び場には高校生、大学生も来て、小さな子どもだから「お兄さん」、「お姉さん」と親しまれています。

あなたはどんなことに取り組めますか？

基本目標4 いつでも・どこでも必要な情報が利用できます。

【地区懇談会から】

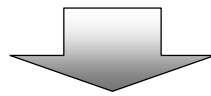
- ・困ってから情報を探すのはとても大変
- ・情報を持っている人がいても拡がらない
- ・回覧板は家族の一人しか見ない
- ・新住民に町の情報が伝わらない
- ・助けて欲しいことを伝えてくれないと協力できない

【関係団体懇談会から】

- ・町内会や多世代の活動も含めたネットワークを作り、地域全体で子育てを考えていきたい。
- ・子供会に入らない人も多く、親同士の情報源が減っている。
- ・困っているときに最初の一步を踏み出すのがたいへん。身近に気軽に相談できる場所があるとよい。

【区民意識調査から】

- ・町内会自治会に求められている役割(問17)
- 1位 防犯・防災(78.4%)
- 2位 地域情報の発信(62.3%)



基本目標 4

いつでも・どこでも必要な情報が利用できます。

～らくらく情報がいかされるまち～

困ったときはすぐに相談できる場所があり、福祉・保健・医療などのサービスの情報がいつでも入手出来るように蓄えられていて、利用しやすい情報伝達のしくみによって、手軽に、気楽に情報が活かされるまちを創ります。

基本目標を達成するための'21の個別目標'

- 14 必要な情報が蓄えられていて、いつでも手に入ります
- 15 さまざまな手段を通じて、必要な人に情報が伝わっています
- 16 だれでも、SOSを発信できます

～ある・ある！地域のこんな取り組み～

地域の子育て・高齢者の情報をまとめたパンフレットをつくりました。

地域支えあい連絡会の広報誌を各世帯に配布して、情報を広めています。

様々なボランティア団体のホームページがリンクしあって、相互にネットワークの輪を広げています。

地域情報を地域の方が集めて、地区社協便りとして独自に編集し、地域に配布しています。

あなたはどんなことに取り組めますか？

基本目標5 一人ひとりにあった十分なサービスがあります

【地区懇談会から】

- ・子どもや高齢者が自由に集まる場が欲しい
- ・さまざまな人が出会える場所が必要
- ・ボランティアの情報窓口ができないか
- ・気軽に頼める場が必要
- ・ごみの集積場所が遠くて持って行けない
- ・区境で、隣区の行政機関が近いが利用できないし、情報もない

【関係団体懇談会から】

- ・地域の施設を利用した身近な場所での健康活動は、普段着のまま参加でき、その後の会話や交際にもつながっている。
- ・体力低下してきた高齢者でも、歩いて行ける「集いの場」があれば、気軽に参加でき、閉じこもりを防げる。
- ・学齢期の子どもたちには、徒歩圏内に公園、はまっ子、学童クラブ、プレーパークなどいろいろな遊び場が確保され、子ども自身が選択できるようになるとよい。

【区民意識調査から】

- ・地域生活を送る上で「気になること」や「困っていること」を解決する場合、家族（55.6%）、友人（28.5%）に次いで近所の人（21.0%）、町内会・自治会の役員（17.5%）があがっている。（問11）
- ・テーマ型コミュニティへの参加 7.6%
まだ多くは無いが、さまざまなテーマの活動に参加している。
（社交ダンス、遊びの持ち味応援隊、国際交流ラウンジ、緑地保存活動、手話サークル、アルコール依存症の会、障害児訓練会、少年ソフトなど・・・）（問18）



基本目標 5

一人ひとりにあった十分なサービスがあります。

～サービスがたくさんそろっているまち～

地域に活動の拠点や集える場所があり、情報が充実していて、必要とする人が適切な福祉保健サービスを選択できるしくみが整っており、安心して快適に生活できるまちを創ります。

基本目標を達成するための「21の個別目標」

- 17 必要な人が仲間と出会える機会があります
- 18 困ったときに身近に相談できる人や場所があります
- 19 地域の活動グループがお互いに連携しています
- 20 だれもが利用できる場所が確保されています
- 21 自分にあったサービスを選べます

～ある・ある！地域のこんな取り組み

町内会館を利用してまちの役員やボランティアなどが高齢者の昼食会をしています。

配食サービスにあわせて、その人が必要とする他のサービスのニーズ把握を行っています。

子育てのとき、親子のたまり場「すくすく子がめ隊」で地域の人たちが支えてくれます。（H16年10月現在区内に33箇所）

ちょっとしたボランティア活動が、この計画の地区懇談会から生まれました。

高校の学生ボランティアが高齢者世帯の電気の修理・点検を行っています。

あなたはどんなことに取り組みますか？

計画策定に向けて

今回お示ししたこの「中間案」に対する皆様のご意見を反映し、策定委員会で協議の上、年度末には計画を確定いたします。

文中にも記載しましたが、計画はつくるのが目的ではなく、推進するための道しるべです。進むうちに見えてくる事柄も増え、軌道修正が必要になります。また、推進状況を見守る体制も必要になると考えています。

具体的にどのような進め方をしていけばよいかは、引き続き区民の皆さんとの意見交換をしながら決めていきたいと考えています。

この中間案に対するご意見をください！

たとえば・・・

- 「こんな取り組みをやっています。」
- 「こんなしくみがあったら協力したい。」
- 「こんな神奈川区になって欲しい。」
- 「こんな計画にして欲しい。」

みなさんの声をお待ちしています。

【連絡先】 神奈川区福祉保健センター福祉保健課事業企画係
〒221-0824 横浜市神奈川区広台太田町3-8
電話 045-411-7137 FAX 045-316-7877
Eメール kg-fukuhokekaku@city.yokohama.jp
ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kanagawa/index.html>